

すくすく

たけのこキッズ

第20号



川崎こどもクリニック

〒597-0102 貝塚市木積656-7

電話：0724-21-2033

http://www.kawasaki-kc.jp

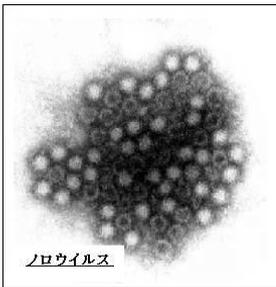
平成17年12月14日発行

いよいよインフルエンザ

待合室にクリスマスツリーが登場しました。寒波も到来しました。そしてついに12月12日木島小学校生の兄弟、続いて13日に永寿小学校生とインフルエンザの患者さんの発生が確認されました。このまま流行するのか、あるいは冬休みに入ってしまう一旦沈静化するのかわかりませんが、うがい・手洗い・部屋の加湿など対策は充分に行ってください。また、RSウイルスというウイルスによって乳幼児でゼーゼーという風邪が多く、ノロウイルスなどによると考えられるウイルス性胃腸炎も多くなっています。あわせてご注意ください。



ノロウイルスによる胃腸炎



ノロウイルス

今年の新年早々に老人ホームでの集団感染、そして亡くなった方もあったことから一時はワイドショーなどでも広く取り上げられましたので、有名になった感もあります。しかし、このあたりでもう一度整理してみましょう。

- ①潜伏期（ウイルスが体に入って実際に症状が出てくるまで期間）は1～2日と短い。
- ②子どもだけでなく成人も感染する。一般に症状は軽症であり、特別な治療を必要とせず軽快する。ただし、抵抗力の低い老人や乳児では死亡例もある。
- ③嘔気、嘔吐、下痢が主症状であるが、腹痛、頭痛、発熱、悪寒、筋痛、咽頭痛などを伴うこともある。嘔気、嘔吐は当初の半日ないし1日でなくなり、下痢が数日続くことが多い。
- ④ウイルスは、症状が消失した後も3～7日間ほど患者の便中に排出されているため、二次感染に注意が必要
- ⑤感染源は下痢便、吐物、食品（特に生カキなど）
- ⑥消毒薬として家庭用漂白剤（キッチンハイターなど）が有効。吐物は最も重要な感染拡大の原因であり、直ちに、ペーパータオルでおおい、その上から消毒薬を原液のままたっぷり浸す。
- ⑦食材は、加熱することが望ましい。中心温度が、85℃、一分間処理で、ウイルスの感染性はなくなる。
- ⑧十分な手洗いが最大の感染予防である。便・吐物の処理の際にもできるだけ使い捨てゴム手袋などを使用するようにして、直接さわらないこと。

おたふくかぜワクチンの必要性

おたふくかぜというと頬が腫れたり熱が出たりする病気で、一生に1度はかからないといけないものだ、という認識が一般的なところでしょうか。成人でかかると睾丸炎を起こして「子種がなくなる」というイメージもあるでしょう。確かに大人になってかかると重症となる傾向があります。では、子供のうちにかかれば何の合併症もなく大丈夫なのでしょう。そんなことはありません。おたふくかぜの合併症として髄膜炎や難聴があります。髄膜炎は軽いものも含めると自然感染の10%程度に見られ、さらにその5～10%は入院が必要となります。また、難聴は200～400人に1人程度にみられ、多くは片側ですが回復せずほとんどの場合一生続きます。ただしワクチンを接種した場合でも1000～2000人に1人程度に髄膜炎が起こります。以上のようなことを総合的に判断し「髄膜炎を起こす可能性はあるものの難聴という問題もあるので予防接種で済ませた方が得策である」と考えています。他のワクチンを含めての接種する順番などは流行状況なども加味して判断しますので、直接ご相談下さい。



絵本書架を設置しました

プレイコーナー内に絵本書架を設置しました。開院以来適当なものがないか探していたのですが、今年の夏の学会の際に展示されていた長崎の「童話館」で扱っている書架が気に入りましたので購入しました。この機会に倉庫にあった絵本も出してきましたので、待合いの雰囲気も少し変わったのではないのでしょうか。当クリニックでは待合室にテレビやビデオは取って置いていません。絵本を通して親子の時間を持っていただけたらと願っています。



貝塚市休日急患診療所出務

12月は川崎の出務日があります。

12月18日（日）午前10～12時、午後1～4時
なお、貝塚市医師会のホームページで出務医師がわかります。
<http://www7.ocn.ne.jp/~kaiduka/>